



大伴金道忠孝圖會

後編

三

13
2692
7





18
2692
7

大伴金道忠孝圖會後編卷之二

目錄

鉏鈞伏兵伐京軍并大野果安夜討
 濃及大上川合戰并大友方諸將戰死同圖
 玉水大合戰并物部日向勇戰陣没
 吹肩が矢先の物部日向討死の圖
 鳥籠山及安川合戰并土師千島戰死
 大友皇子出陣并十市皇女貞死
 白皇子出陣妃即死の圖

江及勢田合戦并村岡男依討智尊
 兩軍大捷戰粟津原并大友皇子自殺
 諸將大ニ紊と大友皇子自盡一の圖
 天武天皇御即位并飛鳥宮造宮
 插白虫養育月幼主并金道九幼推奇行
 金道九幼推奇行と戯と一稻胡麻と飛越る圖

大伴金道忠孝圖會後編卷之二

浪華好花堂野亭著編

鉏鈎伏兵伐京軍并大野景安夜討

物部日向田邊小隅公萬龍山の戦小步勝る勇悦ひ討取し首と齋し軍兵
 戎將々滋賀の都へ飯陣し。勝軍と奏し熊毛以下の首と実檢小備をれを皇
 子脚悦喜浅らむと軍功を賞しひ兩將小封祿とを賜りたる。然小西國へ軍
 勢催促小下向せし穗積百足樟磐手兩人手と空して飯京し君前出て大
 友金鳥公病小托して召小應せむと吉備廣邦ハ王命と拒る暴小應せむといへ
 樟磐手即座小封と捨阿蘇粟隈ハ隣國の輩と評議の上と期を延し其
 余運を兩端小量り更と左右小托し遲滞しし言上と去るれを白皇子空小
 相違しゆし海憤りある。金鳥を左も右もあま金鳥小於ハ九と兄弟の義結

大伴金道忠孝圖會後編卷之二

稱号の一字とよ、其余渠が望じて叶遣らざる更なれ、今一太史の時、臨
聊の疾小寄と加勢せざる不忠とも不道とも喻ん方な人面獸心の所為
言結口断の曲者も、不義表裡の者もあは、行腕も頼、更を
悔、これ西を睨み怒り、眼前眉を焼く、死急救あまむ、其罪死
し、もる死、追もわ、先其伏不捨置ひ、我所小穂積五百枝和州泉
州の勢、二万余騎と、廻集て参着、皇子と首と、上下是、少一機
を救止、且又韋那公盤鋤書直藥忍坂大戸名等、八東國の軍勢八
千余騎と募、都とさ、地上り、尾張の守護小子部鉦鉤と、
人と武略小長、三千余騎を引、親王の御味方小赤り、盤鋤ホが勢
と募り、都上、由と、美濃國大垣の山手小勢と、伏京軍と、伐散、て敵の
勢と、抜んと、待ふ、盤鋤、茶、大戸名の三將ハ斯と、ハ、と、斤時、早

飯京せん、道と急、あせ、書直、茶と忍坂、大戸名、先、進、と、韋那公
盤鋤、後、下、て、往、々、前、路、小、山、有、れ、盤鋤、八、方、一、敵、の、伏、勢、有、ん、も、量
か、じ、と、隊、と、嚴、重、小、道、と、急、と、徐、小、と、あ、せ、茶、大、戸、名、何、の、用、心、無
探、小、山、路、押、往、半、腹、の、廣、路、到、る、比、俄、然、と、鯨、波、奔、り、鉦、鉤
が、伏、兵、左、右、の、樹、林、より、起、立、散、小、矢、と、射、ひ、或、ハ、石、礮、を、お、さ、さ、ふ、と、大
戸、名、茶、が、勢、大、小、驚、た、強、立、処、を、鉦、鉤、が、兵、物、拔、拵、て、お、て、さ、さ、れ、ハ
京、軍、愈、周、障、狼、狽、千、肩、陣、没、數、と、あ、せ、茶、大、戸、名、も、不、意、を、伐、伐、
心、顛、倒、し、か、味、方、と、勵、両、人、も、太、力、閃、り、馬、兼、廻、と、近、付、敵、を、推、排、
く、隊、と、立、敷、正、ん、と、れ、足、場、ハ、悪、し、不、知、案、内、の、山、中、を、進、退、自、在、
ど、乱、ま、推、敵、小、當、ん、と、者、か、味、方、と、突、拵、押、拵、路、を、奪、
逃、鉦、鉤、が、兵、士、案、内、小、委、此、所、の、嶺、彼、處、の、岡、廻、り、兩、の、と、矢、を

放し折所とて塞まて支さるるほど。新小暮小應がていまま入心定まらざる東國
の兵率ともまゝ八白國へ逃散り。親王方へ降参するも少くはらるる処小暮
公盤鋤ハ後陣在り。先強敵の伏兵不意に伐き戦ひ難義なりとま
され社とて勢と進り勝るる敵の後より新参とて伐くやされ鉏
鉤が勢是小強死乱とまて盤鋤得たりと捲り多敵とまて討取らる
と。鉏鉤の其侮りされをさる。今八是まてと手短く勢と班め操引りて
退れり。是小依て盤鋤も案内まぬ敵地たれを強く追人も廿廿と
某大六宮と一平ふかり。伐残され軍兵を檢らる始八千余騎の勢半と折
四千騎紆小伐たれり。されも三將も身の無事と得ありて都とて
と上りる。小子部鉏鉤と討取。首百六十余級降参の兵三百余八
親王の御陣(参り)勝軍と奏され。君大も其軍功と賞りもひ數り

賞物と賜り多。斯く高市大津の西皇子御軍幾有る。近江の都攻上り
と田中足大呂小千余騎と授て先陣と。多品治小千騎と授て二陣小
せ。村岡男依大分惠尺和珥部君手三小。三千余騎と授て三陣と。高市
大津西皇子又二万騎と將て後陣の續も。去程小先陣田中足大呂。美濃
國倉麻止とて行く日暮を野陣と。多品治ハ。新野小氏。一
小近江國の住人大野果安ハ大友皇子小脚味方。滋賀の都。延泰人と思
い。障る事有ていま。領所不在る小。今親王の先強田中足大呂倉麻止
来て宿陣せりと。や皇子の手。産小足大呂が首と討取て獻せん。其
夜急小軍戦の準備。夜討の事。敵味方を弁せん。余との言と。今
と定め。士卒小能く言合。闇夜小拒大を。點ま。密小倉壁の陣。中
俄小岡を。嘯と。奏て伐て入る。足大呂が勢。渡耳小是。と。大も。強

武具よと牛牯丸或ハ絃丸弓小箭前をつぐ或ハ繁き馬小乗て鞭を中振り
太刀と我のよ人のよと争ひ一領の具足を二入奪合周障と事大方おん果
安が兵士ハ合約をうけ合ふ敵と斬て廻る小田中が勢討く者數あつて
適逃延く者も大半疵を蒙りたる主将足居六味方の足並と立整せ
んとまの酒をまぐ下知とれる踏止者もたの暗六圍一敵味方を見分
かこれをも奈何もとるる馬火拍て逃る大野が兵卒大勢も
追うけ己小追迫りたる小足居六氣早丸男あつ今夜の敵軍皆金と
つろ成安是敵の合約かろと察しこれ今敵數十人追迫り成安
振よりて金と呼りりる小の素り暗夜の更かり味方乃士かりと心得て
追迫り者皆引返りたる是小依て足居危急を免と品治が刺成野
乃陣へぞ落行々大野と十小少勝凱歌と上緒卒の息を休させ

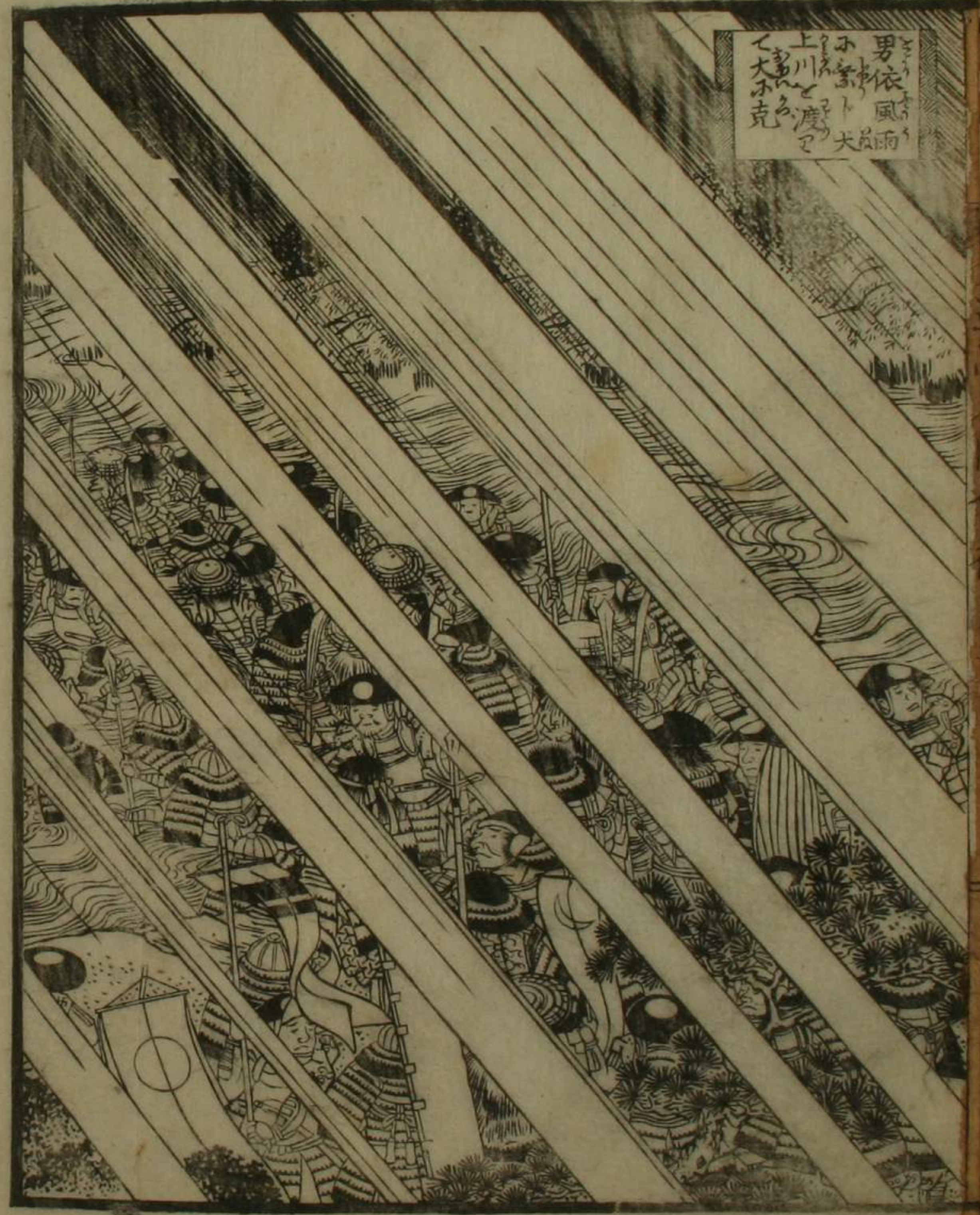
討取一首と点檢する小二百余級小及びこれ大少勇脱ハ是と二面目して
私領へく翌早天小発足滋賀の都へ馳上りける

濃州犬上川合戦 大友方諸將戦死

却統滋賀の都へ韋那公盤鋤書直茶忍坂大六名亦東國勢四十騎と
將之敗京一路次手敵の伏勢の爲小兵と折る義を言し一罪と謝し
を皇子少も咎めをも勝敗之軍の常かり你達が無憂小飯こそ丸が幸
なりとて却て賞物を賜りけるを三將深く君恩と謝して退れり且又大
野果安手勢五百余騎少く参著し討取一首と実檢小具夜討の勝利を
奏し名を皇子深く功を賞し御馬太刀亦賜り果安雅有頂戴して
後東軍已小濃州を発足せし由と言上せりるを勢とさう向く追掃と
山部王小巨勢比穂積百足書直茶忍坂大六名大野果安亦と副く軍勢

一万騎と授けし山部王以下吉日と撰り志賀の都と啓行東國と臨んで進
發し近江國大上川へさる早敵川向まき来り多きを此所にて一戦
及ぶと大上川を前ふ當て屯と張り諸又親王方中足戸不覺
乃敗軍ふより先陣と和珥部君手村國男依小換兵千五百騎を先
とせれ多き君手男依命小徒の大上川まき到る処小作候の者馳入り
京軍大勢やう己ふ川向まき出張しと報せりふより君手男依の川の東
岸小屯し兩軍大川と隔り睨合互ふ射人を出し矢軍小且送り暮
しれ勝負もたけ猶縁合多る内日大雨降出終日小止り降るふと
兩陣雨の零るを待たざる然ふ村國男依君手小議して曰く今日の大
雨ふく川水増輒く渡るるをさうふれ合戦ハ雨零水減と後と敵軍も
氣とさうと備なるをさう因り其今夜川を渡し不意に敵陣と夜伏

せんといふ如何と向ふ君手やて此儀誠小好といふ敵將巨勢比總積百
足ある武辺の者あはよ然ハ油断なく防禦の備有ん又今日の大兩わて川の
水高も増えれ容易に渡らうと曰く男依推返し否然と軍ハ其
不意に伏ふ不如川水増えれ渡らうと曰く男依推返し否然と軍ハ其
川の上下に瀬踏をいし浅深を探せし是より十町許に浅瀬多し今水増
らうとも馬脚のまね程ハハあり雨の降内まきの水の増とのあり雨止
後ハ遠近の山より水落合て水高拔群小増なり依て今夜川を渡し敵
の備あを伐む勝利を得ん更必定あると曰ふと君手も理小伏し先
水煉の者小命とて浅深を探せ且敵陣の動静とも窺ひむらと物神
らう水煉の達者十人許小命とて水の浅深敵陣の動静と窺ひむら其者
とも三飯り川の上の瀬ハ水早くいとも馬の脚のまね程ハハあり又敵陣の体と



男依風雨
小糸ト
上川ト
大川ト
大川ト

窺ひし何の用心もわく甲冑と解酒宴ふんと油断の体おいと報ドク
 男依史て社我推量お違ふと急夜伐の準備。多勢お却く
 不弁利かり。君平お一千五百騎と至て後陣と。男依ハ千騎を従二
 更お兵糧とほりせ。合約を定て三更お赤案内の者と先お車油を流
 と大雨を犯し。然も如法周夜お大上川の上の瀬おり。男依下知を傳へ歩
 率八十騎二十騎は鎧の上帯と順ふと一連とかり早瀬の浪お流れさ
 手當。馬武者ハ歩卒の下手おかりて渡。都て無言や馬公急縛り物音
 のせざるはて押寄なりと令。拒松も黙まど降頻る雨の音お紛と難
 かくさよ大川と渡。先陣後陣二千おまよひと敵陣寄。俄小團を唾
 と發く乱入を京軍ハ此大雨お敵寄なりと思よ。皆甲冑解く熟睡
 番卒さく物お寄りて眠り居るお俄の鯨波お仰天周障顛倒し起

上ととも筒火を皆消同刺も老ぬ暗夜をぬ敵味方とさ。具足と尋
 太刀と搜と回お敵小討と過敵と防をさる者も多くは士討て手と負味
 方乃逃来るも敵と心得て迷惑ひと。車外逃出て雨お滑道小
 一り仆と途と矢ひ川辺。走り水お溺るも有敵と支る者ハわく討る者ハ
 數も。男依又味方お下知。陣小屋お火を掛る。雨中お燧とて黒烟
 地お満足小喊てわよ内生捕るも少と。誠小陣中の騒動鼎の沸か
 穂積百足書直業巨勢比。大野果安ホも味方を耻しめ踏止せ。馬並廻
 て下知とれも。大軍の乱る。お耳お中を我先中と落て行ぬ山部王周
 障。馬然拍て逃行を村岡が郎黨惠美車とい者追りて。討取書直業
 と君手が郎黨大勢お橋おせ。穂積百足ハ村岡男依と馬死て戦ひ
 たる男依ハえ来りて不當の剛勇かれ。百足力疲て終お男依が為小討れぬ

巨勢比之戰場こせのけが、馬兼廻まかねまわ。近付敵ちかづか十五騎切きさまて落おち。味方あじかたと勵いそ。不知しらずとれるも踏止ふみどめる者ものカレを此陣このじん小ちひく戦死いくさせんと都みやこへ歸かへり重おもく合戦あひせん。今いま後ご耻ちかを雪ゆき人のひとと群むらる敵てんと馬蹄ばてい不け蹴そ立た夜よを犯かりて無な二無ふ三さんの戰場せんぢやうと落おち。小ちひ多おほく大野果安おののりやす、今夜こんやの敗軍さいぐんと我われ一人ひとりの耻辱ちよぼと思おもひ手痛ていく戦いくさひく敵數てんあま多おほく討取うちと其身そのみも薄手うすて重手おもてと蒙あり名な由よしなれ者もの討うちえんと自らみづか腹はら二文字ふたご小ちひ掻切かきてと矢や小ちひ多おほく大将たいしやうの者もの如是ごと或ある生捕なまま或ある討死うちれれ残兵ざんぺい何なんと堪たんば皆みな八方はつぱう落矢おち降参くだる者もの千騎せんき小ちひ余あり。今いま拒敵こく者ものなく雨霰あめ夜よ小ちひ及あくと明あり多おほく男依おとよ君きみ手て八思はつし小ちひ勝かちて勝因かち三度さんど上あり討取うちり首あたまと檢あむむる小ちひ大将たいしやうの首あたま三級さんき其餘そのあ三さん百ひゃく余あ級き生捕なまハ書直かき直ちと首あたまとて五百ごひゃく余あ人ひと降参くだる者もの千余せんあ人ひと味方あじかたの戦死いくさハ僅すこ百五十ひゃくごじゅう人ひと過すりなれ。兩將りやうしやう大おほ小ちひ勇ゆうと悦よろこび首あたまと降人生捕くだる本陣ほんじん送り。大上川おほのうへがわの勝軍かちぐんと進進すすしなれ。高市王たかちのう御喜みき悦よろこばし。

早速親王さつそくしんの御陣ごじん、味方あじかたの勝軍かちぐんと御進進ごすす有あり多おほく小君こきみ御感賞ごかんじやうナリ。當座とうざの麻呂あまのり美みとて兩將りやうしやう金かねの采さいと賜たまひ勢せハ強つよ志賀しげへ攻上せまるゝと御下知ごげちあり。又また紀河内きのわち古宮ふるみや三宅連みやけのむらじ安斗やすと石床いしど三將さんしやう小ちひ二万五千にまんごせん騎きと授たまへ伊勢いせの大山おほを越こて大和路たみちより溢賀あふがへ向むかせのハ緒軍おとぐんの袖印そでいん小ちひ赤絹あかぬいと付つきせ敵味方てんあと弁べんと便べんと。かゝる人ひと却かへ脱京だつきやう方かたハ東國あづまのくにへ向むかひ軍兵ぐんべい追おひ逃にげり。大上川おほのうへがわの夜伐よるぎ小ちひ大将たいしやう山部王やまべのうを首あたまと皆戦死みないくさせりと告つげなれ。皇子みまろ方かたの緒卿おとぎやう大おほ小ちひ驚おどり是こゝハ如何いかにと云いれと評議ひやうぎ區々くくなると処ところハ巨勢こせ比ひ草騎くさきと逃にげり。敵軍てんぐん勝かち小ちひ兼かねハ兩道りやうだうより攻上せまり。進進すすし多おほく小ちひ緒卿おとぎやう益えきやられ再び評議ひやうぎ疑ぎ。奈友足なともあ、坂部さかべ奈友足なともあ、兩人りやうにん小ちひ三千余さんぜんあ騎きと授たまへ敵てんと折所せつじよ小ちひ支しえんと下知げちしなれ。多おほく小ちひ兩將りやうしやう命いのちを領りやうし。都みやこと奈足なあ。坂部さかべ奈友足なともあ、二千五百にせんごひゃく騎きと息長いきなが横川よこがわ、地未ぢみ、奈友足なともあ、奈友足なともあ、鳥籠山とりかごやま、近江國おんげのくに、小ちひ屯とんと張てて敵軍てんぐん攻上せまハ一當いちたうあてんと待まちふ。

玉水大合戦 并 物部日向勇戦陣没

却説大伴吹負ハ葛籠山の戦小少負無念なると石上へ取り再び勢と
集く先敗の耻辱を雪んと思ふも熊毛戦死しこれ維をうかどうふるれと
思煩ひなる小槻州三島引籠藤原淡海公先小壹岐韓國討取
親王方の色と願ひ頂日東國勢の攻上つる俱小勢と合志賀と攻んと出
陣有との風説を穿く大少悦び直小槻州三島なる淡海公の館へ到り淡
海公小湯して御勢小加らん更と望まれ淡海公も吹負が武略小長せし
更公兼て中及われ更ふれ喜悦ありて一儀あり及と承引有小ぞ吹負も
斜な手悦び奈良小く集會とる契約一別を告ぐる石上へ取り兵士
御民と驅集る小四百余人小及られ大ふ力を得淡海公の出陣とを相待る
斯く淡海公ハ津國和泉の軍勢と驅催さる小追く小池集る凡八十余騎

小満をれ其勢と將く三島と弁足一和州奈良出張ある小道小て五
十騎百騎弛加り佐宰相春衝も二百騎を引弛加り奈良者到有
る勢と点檢ある小一万余騎小及び多る加之大伴吹負も三百騎弛参り
これを都合二万五千騎小向たり然る小滋賀の都小八東國向ひ勢小一連
土師千島と小軍將小三千余騎を授て江州安川中出張させ小又
淡海吹負春衝小横河泉の軍兵と驅集奈良まが出張せりと擲の遣と
挽く追く進進一々多る皇太子方の小大少狭れ是又小捨置さる
物部日向羽田八圓小八千余騎と授奈良の敵と追拂ふと棄せれり而
將承りて都と赤免道を過玉水の辺まが押往処小早敵軍前途
来るとすえなれ小京軍玉水小隊と立敵多る一戦小蹴散さんと待小
藤原勢も是と及敵陣と其間二十町許隔る陣列を立貝鉦と鳴り

軍威を示し、多る京軍敵の大軍あり、或る皆恐怖の色を表し、物部日向衆を励まし、大声を以て合戦、勢の妻少、少く、大將士卒心一致、義を重んじ、必死を寔めて敵、當て一人十人敵を、敵軍を、以て、五六千騎、小よも過、然る味方の勢と一倍、不足を、何ぞ、小足ん、我此年月、大友天皇の御恩を蒙る、吏深し、明日の一戦、一命と君奉り、敵將、海首を得、生て再び、緒軍、酒を吞せ、其銳氣を引、是、小励されて飽ち、小耻し、夜と俱、緒軍、酒を吞せ、其銳氣を引、是、小励されて緒、卒色と整、天晴、明日の合戦、小名ある敵と組、刺違、勇、斯く程、其夜も、明日、南北の兩陣、隊伍を押し、互、陣、大鼓、立、鯨波と合、稍進、近付と比、矢合の、鎗射、南方の先陣、佐春、衝、和泉河内の、個人を、徒、二千五百騎を、魚鱗、備、て、整

と相進む、小北方、先將、物部日向、此度、敵を、追拂、を生、思切、更、殺氣、面、頭、と、士、平、と、勵、會、敵、勢、小、伐、を、兩、陣、互、小火、花、と、散、と、挑、戦、ひ、つ、小、先、達、て、戦、死、け、坂、本、賊、が、甥、小、岩、間、須、恒、と、又、者、勇、氣、衆、小、勝、と、今、度、藤、原、家、の、募、小、應、下、今日、の、先、陣、小、加、り、緒、人、の、目、と、狭、と、往、の、高、名、せ、んと、馬、戎、進、敵、小、合、縦、横、小、難、で、廻、り、敵、三、騎、斬、て、落、し、多、く、小、日向、が、即、黨、山、住、二、名、と、名、告、て、須、恒、と、太、刀、と、合、一、上、二、下、十五、六、合、戦、ひ、つ、山、住、二、名、須、恒、が、太、刀、と、受、損、下、兎、の、真、向、より、割、つ、け、れ、矢、小、多、く、諸、又、物、部、日、向、自、多、大、太、刀、技、埒、と、敵、と、斬、更、草、戎、は、難、が、如、く、近、付、敵、十、三、騎、討、取、十、七、八、騎、小、平、戎、肩、せ、れ、其、饒、勇、小、心、は、南、軍、用、兵、卒、を、避、通、し、多、く、日向、入、を、死、竟、と、性、が、如、く、荒、小、あ、れて、近、進、多、く、小、端、方、く、岩、間、須、恒、と、性、合、多、く、須、恒、と、小、敵、と、大、音、小、天、晴、敵

将や某と河内國の任人岩間須旺とて赤物業小鳴呼の者と呼ばるる
名と名告て一太刀合の多と叫りたるを日向嚙と観て已如きの匹夫小名を
名告も無益なる冥途の土産不言言とて是を大友天皇の勇臣と三
才の小児まきと怖とる近江國の任人物部日向と我妻たりと名告る小
と須旺大不悦ひ望む外敵の大將軍御首賜ふんと言ひ終む馬耳寄
て収ててを多日向勅並と怒り逃を助るを虎の鬚頭と引く後
悔おせとと雲の向ひ合して十余合戦ひ多須旺が刀法漸く小乱を度天刀
小成りたるを赤物業叶と太刀投捨る馬と寄無手と組日向をせし
右手と廻して須旺が甲の上帯扱ひ曳やと言て腕限お指上三間計投たる
はりの須旺骨と砕れりやと日向が士率近來つる首と取る日向は小間
もつけど猶敵軍小直向ひ井の字巴の字小直恨と大將如是なれば従卒

も是も励まされ一足も退く者と耻め合喚叫り戦ひくれ南軍是も當
りの足場を追まくれ支度度お成て乱立佐春衝大お怒り言甲受なり
者ども多敵味方の見方前も有ど踏留て追まよと頻て下知と傳れども
浮き一勢のあり足並と整正し三所絆と追まれり。二陣お押一住
吹負斯と見るより一千五百騎と長蛇お陳る香象の大海と涉る勢なり
横合より日向が勢お伐ぐる北軍是と見馬の鼻と立久大伴の新平と
挑む戦ひ或討或討と千騎が一騎おたるごとと火花を散して揉合たり。され
ども敵も新平と以春衝と味方の隊伍を整一殺到りたるより又捲り立
られて引退く京軍の後陣羽田八國味方の敗色と見入替入と物軍五千
余騎を三隊お三方より押出して味方を扶け伐ぐる南軍の惣大将淡海
公も金倭真足瓜生競るる郎黨小五千騎と授る味方を扶められり

金倭真足瓜生競るる郎黨小五千騎と授る味方を扶められり

おど南北の両軍一万余騎喚叫ひ此所彼処へ寄合せ近合せ搦戦
まろ程小煙塵朦朧として天色と曇らせ奥声馬蹄の音八九天小響き
金輪お徴し山谷震動して凄くなんど言許なく敵味方の屍を置くと
て幾堆の岡を築た鮮血溜りて数條の川を湛々り藤原方へ追く小
勢を入替せ新平と以て攻まれば京軍へ替る兵なく人疲馬弱りて終
小惣軍色うれし移ると乱と々々と物部日向大不怒り不覚かる者ども
死る命あむも足も進んで死し一夭の君の歡感お預まよと呼り馬と躍
して群る敵軍お近回ひ近寄者と左右お斬伏組んと寄と搦扱て人碌お
歩率八両鎧お蹴まると荒廻る為体夜又神の怒まる如かたれ此太刀下討
る者敷あむと勝縋る南軍も辟易して近付者もかりりる茲小大伴の
吹負八何卒此戦お物部日向を討て先敗の耻辱と雪れ亡し熊毛が供養お

備んと狙ひくふ今日向が深入と間近く働か見と返り小矢と番へ銀響
て切放す過まると日向が肩と羽とて追て射付る強氣の日向些も煙を
右手と以て搜り捨る間も吹負が放つ二の矢お胸板の正中と突と射通され大
事の手おれ馬お漏得と横お倒と落まらむ日向が郎黨大おおれ
急お扶起さんと西三人走り寄り吹負が士卒大勢近寄て敵兵と討て取
終お日向が首と搦てま物部日向を大伴吹負が討取ると同音お呼りりる
南軍勇めて腹を打た唾と因と奔る北軍頼切も大将と討て機を落
し愈強死乱て敗走し日向が息顧の郎黨お主の殉死せんと敵と組で刺達
或お自ら腹掻切く矢も有て終お惣崩とかり八方逃散るを羽田八國も
勢ひ尽鈍くと兜と脱で降と今敵と者もかりりる南軍引鉦を
鳴して軍を班め大お勝國と奔り皆軍馬とを休る



鳥竈山及芳川合戦 土師千嶋戦死

且親王方の先陣村國男依和珥辺君手緒奉成將攻上々息長横河
まぐ押進む処小川の向小京狩塚部某逞兵一千五百騎小て川と前小當汀小
挿楯突並登究竟の射人五百人を撰ぶ矢復と造らせ敵軍川を渡さむ
一騎も余さむと射て落さんと待ちけり。是は依て堰くく川渡さむと南岸小
屯し軍儀も内二陣の雅櫻五百瀬大分惠尺も来りたる男依緒將と
儀くく此川さの深くく水勢甚く疾く其上敵射人を揃く待休れ
む。うろ小渡さむ味方の兵卒と折る依て列位當所小屯くく川と渡
さむと矢軍と目と送り其原某八川上より渡りて敵の横合より攻伐を
む敵勢と今防んとを登。敵多勢小屯れも二千騎小も過り然るに引
分む川を守る勢一千騎小過む其時三將河を渡ると伐さむ一戦小敵と

伐散さん安る多布言多れ三將実めと同意を是小依て男依ハ
八百騎許ゆく道と廻り川上の方へ赴れり。五百瀬以下の三將八川端小
屯くく関と奈陣貝太鼓と鳴。今も渡さむと勢と示れ京軍も手
為根ひれ渡さむと射んと待ふ。去程小村國男依八間道を往くと五
里許小と切所と越川上より渡りたる小忽ち川向小百四五十騎の勢顕れ
出雨のく矢と射く小と村國が勢矢庭小四五十騎射落され大驚
か。川へ浅く無二無三小押渡り敵小伏てくをたれを叶りも思ひん
一支も支むと皆悉く逃去り男依不審敵此川上小伏兵を置ん何の為小
やと。川の上と下とんせむ小果と上の瀬小土儀と多く積て水と堰止る男
依手と拍川の浅きも理かり味方の勢川と渡む此土儀と切く水小漏さん
彼韓信が囊砂の針策小あひひく。我是と知れも不圖此川上へ廻

此所へ来り六偏小親王の御運芽出た死兆たりとて土俵を切せざらば
二百人許の勢を置いて守りし。残る勢を引く敵陣を向ひたる。斯く京持場
部の某ハ敵川を渡を二泡吹せんと待とも。敢て渡さるハ億せられ別針
略有てうと心湧る処小兼て川上遣一置一兵卒追く小逃取り。敵軍リ
上より渡りぬ射あまういふも。大勢なれば遂小川を渡り伐立其十六小
勢なれば敵一難く往進のめ引く敵の頃敵此所へ押寄いなり其手
當をたのむと告ぐ某ハ驚れ諸ハ早く味方の機密を敵あはれ
り。敵の大軍と両方小詰てハ勝利有るなり。此上鳥籠山へ退れ秦友足
と一手小なり。切所を敵を防んと陣所の旗旗陣幕植かん其小
捨た夜小紛とて鳥籠山へ走往々。斯もあまを村國男依ハ途中小
一夜を明し。翌日早天ハおまむ往て敵軍の横合へ出隊とて押寄る

小早敵ハ落失て空陣かりた葉小相違一か川向の味方を指招た敵兵
早落失し疾川を渡されんと呼りたれ。五首瀬君手。惠尺ハ一笑と催し
一谷小川を渡りたる男依も川上残せし兵卒と呼り。先陣二陣列を正して
鳥籠山へ押行。且泥鳥籠山ハ秦友足坂部某と一手小かり都合
其勢四千余騎旗旗山風小吹塵せ。敵軍令と待処小程ハ親王方
の先陣和珥部君手。多勢小令一楯と被連て攻登る小を待致る京軍典
を兼精兵の射入を揃山上より下挙射下を矢白雨の降より敵余れ楯を
漏る敵勢と將基小射落をされも勇渡り寄兵少くも屈せむ手負
を引退死骸と踏越曳る声て攻登其勢ハ烈いむと防がくんえられぬ
京軍も此所と大事と射立或弘道より横矢と射たれ。うもの東軍堪る
てたよと処を山上よりお物の兵高ふらうと伐下る小を寄兵是小捲され

なれ落死傷の者數あつて京軍千餘人引上寄兵攻上る射止は
漂へ処と伐下り幾度も如是なり東軍新千と換て攻む京軍も新千
を換て防たる力寄兵殆ど攻應其日も栗没れ送不退野陣を
と軍馬の息と休らる時小村國男依緒將と集て議する山道嶮岨
たる上敵軍能防禦と味方勢と折のさく容易攻登が依て其愚
案と廻ると小百登小攻登人とせむ又今日の如く多く兵と損むを某と大
分患尺ハ究竟の者五六十人を従へ道は山林今入如何も山上登り
今宵敵の備ふ陣中伐て入る五百瀬君千兩將八枚と衝と歩ふと
三百人許と従三更の頃より物言せぬ小潛小山上登り急小拒火と黥
連て一宵攻入むと言れ五百瀬君千承伏と用意とわたり男依車心尺
と士卒の中小く勇壯なる者六十人と撰出兵糧十分はらば鍵

繩梯子ホと用意其夜二更の頃より陣所と出拙獲夫を引路つて鳥籠
山の同道より分登り道もかた木間を潜り岩と傳ひ谷と越尾と廻り千
幸乃苦と厭むと幸と山上登るまで得たり又彼五百瀬君千八連平三
百人をどぐと三更の頃より坂道と攀登り息が結抜歩く左右と峠
小登りえれ京軍の番の者大勢登の戦小疲とや此所彼処小焚捨
竹無の辺歩付前後も走と睡眠し寄兵兵規ひとほ用意の拒火百小
點と三関を嚙と上るも寝た者も大小仰天周障と起上る寄
兵三百余人抜連て斬廻り勢小無と友足葉が陣押寄り是より前
男依患尺と友足が陣の辺小到り関と棄て乱入小京軍ハ今夜敵の寄
とハ勢小知と味方小及忠の者有て不意と伐かんと心得狼損眼小付士
討とるも妻より友足も敵味方と弁の馬小鞭て逃出ると大分患尺追

鬼馬の尾筒を擱ぐ曳戻し馬を強た剣上るふと友足六真逆小落を
 惠尺走々つと取て抑首搔切く上り村國男依も三十人の力と兼強
 力なれど四尺余の太刀抜挿し歩まき走り廻り當を幸小斬落と此
 太刀下小向者一人とて余と落さねり強將の下小弱率り六十人の者
 も分外の勇と奮闘働く程小京軍勢も僅の敵小伐悩れ移くと
 乱まき敗走と加之君年五百瀬も諸卒と將々荒来り俱小敵を討
 事草と雉が如く程小夜も白く明渡り多丈麓小東軍皆一
 舟小山と鬼登り味方小力と併て伐るべく不意と伐き強語
 京軍愈崩立我先と山を逃下りたれ堀部某も落行勢小流たれ
 安川まで敗走々々東軍八思の休小勝首と得る八百余級敵の捨る
 武具器械を分取るる更敷々々緒軍と班め軍馬と休め其日鳥籠

山小陣一秦友足が首と齋一高市王の御陣へ勝軍と報れ々々奈御
 感賞ありて猶銳氣と拔ど敵徒を攻伐し志賀へ攻入ると下知る小
 より男依以下畏り其翌日鳥籠山を亦立安川へと押行る去程小堀
 部某ハ敗卒と引く安川の土師千島が陣に到り對面と鳥籠山の合戦小
 利を失ひ秦友足を戦死せりと告ぐれ土師千島安川を思ひ新千二
 千騎小川岸小屯し某が勢二千余騎と後小備を矢東解く敵乃
 寄る必待居り其翌日東軍の先陣村國男依和珥部君年千五百
 騎小安川の東岸小着し少時息と休る内小二陣の推櫻五百瀬大分
 惠尺も千五百騎小馳着々々是小依て男依君年小川小臨し皆矢
 軍小時と移り々々小二陣の五百瀬惠尺ハ遙川下より颯々と川を渡り
 々々小村國男依大燦々二陣小先近せしれて何の面目ありん此也

渡せ名と下知し自身大捕と怪くと左手小麻馬と川へ乗入るを君平も
後と乗入る主将如是なれば難く少くも猶濠を死一千五百騎の兵
混くと乗込飛込周を登り押渡る京軍身を射落さんと精兵の射入
川岸小立たひ指とり引結雨のどく小射る程小東軍多く射落され矢を
肩者數多かれも男依君平公茲とて怖と捕と被き鏝と傾け馬を
游せと難なく岸小乗著一躍させと周と飛上る其勢の堂くとてありを
拂と見えんを京軍思ふと感嘆し天晴嗚呼の敵將やとと登り下り續
く惣軍一門小喚と上とて京軍其猛勢不辟陽し五町許引退く土師千
島八陣ゆる大剛の勇將なれば大に怒り。藏かれ者どもの引るも長
途小疲まて敵ちもど捲りまて川の氷屑おせよと叫りて船真先
小馬と躍せし大太刀電光の激とる如く閃く蜘蛛懸繩十文字小

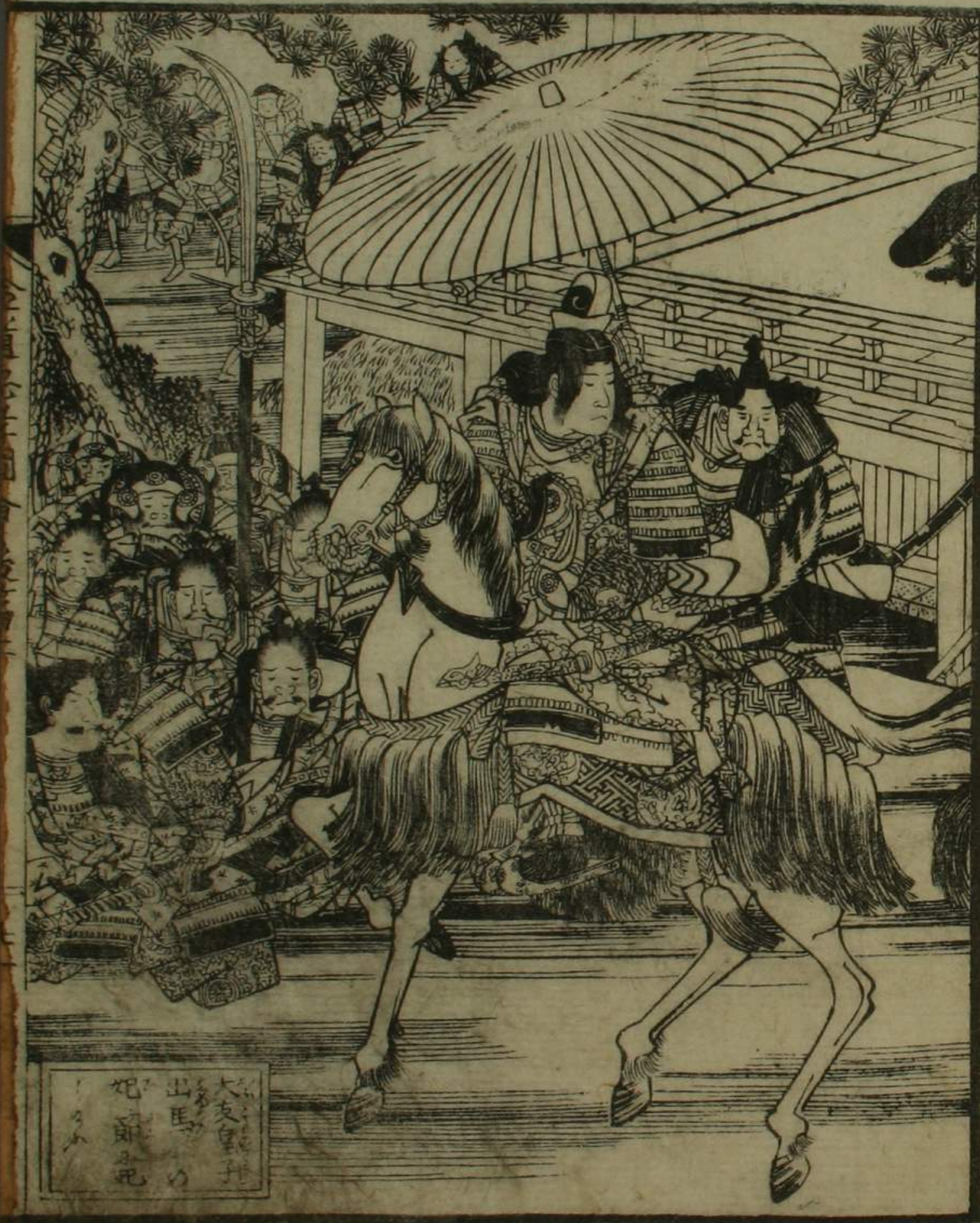
斬と廻るふと真向梨割拜討袈裟斬胴切腰車敵と討り數まて
血煙紅の無務と降と不彷彿と。此奮勇小怖とて東軍もと逃散る
然小村國男依が脇腹と叫り。岩淵周とて者身材六尺八寸頗長逆小
生環眼星のどく光とる。黒革威の鏡目毛の兎と猪者小善なり大に
一尺馬小鑄地地の鞍置て跨り。四尺三寸の野太刀拔とるち子島小近向
適京方乃大將軍と見え勇々敷い嗚呼がまていも村國男依が膝下
小。者有と叫り。岩淵周とて其が事なり一太刀参んと呼るとは千嶋
巨口開く呵々と咲ひ優とる名乗るも。對手小不足なれば千島程の者
小太刀合参んとす。志の健氣まふ我太刀の鑄とて得まを登し。いさよ
よと大言。なるほど周心怒と再び向答小及を子馬小拍入斬とくる千島も
大太刀振掃り互小馬との達者なれば右小廻り左小合發止くとお合

獅子の齒咬とたひか如く。飛散火花を時々の紅葉の散るとあやまれ。互
小精神倍加り。戦ひ五十余合ふ及ぶ。更なる雌雄を争はれ。赤物業一面倒
なり。俱ふ太刀を投捨馬上あがり。無手と組曳る声を出し。操合程ふくも
勇敢の岩淵も力衰へ。腕鈍々多と。千島難く。鞍の前輪小捕り伏首
あつはと。掻切多。茲小村岡男依が。郎黨惠見集八周と。莫逆の友方れを
先刺り。両雄の戦を見物と居り。心已小周され。れを朋友の仇を報
せんとの。透き馬と拍て。敵将今二勝負あれと。呼りか。萬寄大牛と。廣け
て組付す。千島心得と。刀と捨く。又組合汗水と流し。捻合に。俱ふ鎧と踏
切く。西馬が。間小唾と。落千島が。郎黨主と扶合。西三入走り。来る。千島家子
三四人。薙隔て。お合々。千島と。集一塊と。ありて。操合々々。千島は。先刺り
の組付小精精力。疲と。腕弱り。る。小と。集。遂取て。伏難。首と。揚り

千島が郎黨眼前小主と討と。今ハ維が為小存命。我もくと
敵小うけ向ひ。或ハ組が。刺違り。有。或ハ乱軍の中。斬死。も。有。言甲斐
な。死士平ハ。己が。多。小。落行。多。此時。で。坂部。茶。ハ。推櫻。五百。瀬。大。分。惠
又。ホと。撰戦。一。京。追。つ。返。ら。挑。合。々。々。土。師。千。島。討。と。徒。兵。散。乱。男
依。君。手。が。勢。京。軍。の。横。合。より。伐。え。々。々。小。並。茶。が。勢。西。方。の。敵。小。操。え。ら。れ。堪。
兼。て。山。朋。五。散。く。小。敗。走。と。坂。部。茶。も。力。疲。て。落。々。々。と。和。珥。部。君。手。追。行
て。討。取。々。々。後。ハ。手。小。五。敵。も。た。り。た。れ。東。軍。勝。閑。を。発。千。島。茶。が
首。と。高。市。王。の。御。障。へ。送。り。惣。軍。と。待。合。り。滋。賀。の。都。へ。攻。入。と。用。慮。々。々
大友皇子出陣 并 十市皇女貞死
滋賀の都。東。方。の。合。戦。如。何。有。心。追。く。存。候。と。出。と。窺。へ。し。る。所。の。軍
小。味。方。悉。く。利。て。失。ひ。頼。切。々。勇。臣。ホ。皆。戦。死。敵。軍。早。草。津。と。攻。上

且つと回報こたへしなると上下じやうげ顔色げんしき如菜にがな惘果ぼうくわて言所ことばを去いて大友皇子おほともみまろも以
 乃外なほ驚おどろみ此こゝ六朕むつみ並なら向むかひ伐散きりんと出陣しゅじんの準備じゆんびと為なりあのみ船甲ふねかぶ
 田ち目め小御身こみみと固かたまされ首途くびみちの御酒宴みみづりと促うながしる后妃こうひ十市じゆしち皇女みづめ八身やみや今いま生
 の御別みまがと思食おもひ御歎みなげする方かたかゝるも其色そのいろも露あ路ぢのつらと平素ひらひらよりも艶うら
 麗うらしく粧まひのひ御酒宴みみづりの席せきも立た出て座ざお着つきのひはれ皇子みまろ土音つとねを扱あ
 三度さんど頃ころのひく皇女みづめ賜たまひ儲宣たくらひのち中なかつ。朕みづか適あた十蓋じゆしやうの帝位ていゐ小即こすくとすとも
 宿運しゆくゑん拙ちやく味方あか戦いくさし小敗績こばいせき一腹いふく心こころ脇腹わきばらの武臣ぶしん龍門りゆうもん原上げんじやうの土音つとね敵た。年未思としな
 義ぎと懸か。東國とうこく西國せいこくの武士ぶしも或敵あるたへ及忠およぶちゆう。又また公自國こうじこく引籠ひきこもりて朕みづか二臂ふたひの
 力ちからと扶たす。朕みづか今日けふ敵た小菟こう向むかひ運うんを天あま任まり有無いう存亡ぞんぼうの戦いくさをかんとこと死
 生更せい不定ふじやう。若し戰場せんじやう小命こみことと落おさむ是こゝ別の土音べつこのつとねかりと仰おほせ皇女みづめを胸むね
 小湯こゆ入いる御涙みなみと漏こぼれしと思おもひておぼろるも此御切こゝを同おなじの堪たもてよと泣な伏ふ

のふと御理ごりりある皇子みまろ氣色けしきと損これぬ軍ぐん戦せんの首途くびみち小不吉こふきちの涙なみをこぼし
 疾はや土音つとねと上ありて喝かつし小御身こみみと皇女みづめより小御涙こみみを抑おさめ土音つとねを執とり上ありて
 御長柄みながへの役やく弁べんの命婦みことめと仕つかりたる是こゝと始はじめとて兼かね我われ赤兄あかあに中臣なかつひ金連かねづ巨勢こせ入
 臣おみ紀き大臣おほおみ武臣ぶしん大養連おほやしやうづ谷塩やじゆん巨勢こせ比ひ章あきら那公なこう磐いわ鋤あ忍しの坂さか大おほ呂ろ田た辺へ小
 隅すみ樟しやう般はん手て其その余あの渚しやう將しやう近ちか御土音ごつとねと賜たまり御酒宴みみづり畢はり皇太子みまろ寮しやうの御馬ごま小金
 銀ぎんと鑠しやくる皆具みなぐと飾かせ此系こゝの厚あつ総そうの鍬くわけてお乗のりる其日そのひの御出立ごしゅつだ立た鳥とり鳳ほう
 小菊こぎく桐とう乃の御紋ごもんと織お交かる赤地あかぢ錦にしんの御直垂ごちか垂た小緋こひ威ゐの御着ごせ鎧よろいを草摺くさすり摺すり長
 小着こぎ下したのひ針はり腋わき當あ御楯ごたて當あ御皆みな珠たま玉たまと飭しらせ白しろ丸まる箱はこ好このの大おほ口くち者もの
 金造かねぞうの御太刀ごた小虎ここの皮かわの尻しり鞆たもとけけ短たん刀たと十文字じゆもんじ小佩こゐ添そのひ金巾かね子の冠かぶ頂たか
 きのひ梨なし子こ地ぢ小龍りゆう虎この高たか時とき繪ゑとる籠かご小切羽せきりの鷹たかの羽はの征せい前まへと三十二さんじに指さ
 て苦くる高たか小肩こかた乃の重おも藤ふじの御弓ごゆみの握にぎ太た乃のと左手ひだりの腋わき小極こごく紅べに井いの給たま半はん



小黄金の筒守と真紅の紋つとまのりまにぐ結下むすぶるむすぶ杖指つゝさしけむすぶまのむすぶ日月織にちげつるむすぶ錦にしきのむすぶ御み簀すいと先まへ小こ立たままを大庭おほのぼほの駒うまと歩あゆせまるむすぶ其その脚骨あしほね柄かた蕤い堂どうと古いにしへの日本武やまとぶ尊みことの再また此世このよ光臨みつらみままるむすぶ思おもひむすぶ許ゆる四よ邊へと拂はらぐむすぶ入いるむすぶ小こ三さん大臣おほのむねと首くびとむすぶ未まのむすぶ士し卒すつ小こいいるむすぶ追おつむすぶ感かん奉ほう衆しゆ衆しゆ白砂しろすな小こ首くびと著あるむすぶ少すく時とき頭あたまと上あるむすぶ者ものと無なアアを斯かく々々皇子みまのひ林ま門かどを出いでむすぶ御み後あと亦また兄あに金連きんれん人ひと臣おみ大臣おほのむね其その余あまの公こう卿きやう今いま日ひと曠あひらく思おもひむすぶのむすぶ鏡かがみの上うへ小こ狩かり衣えけむすぶ飼かひ飼かひ馬うま小こ跨またりむすぶ供くわ奉ほうしむすぶ其その次つぎ小こ武ぶ臣おみの面おもて爽さわ小こ鏡かがみと隨したがひむすぶ百ひゃく万まんの強敵かうてきと一ひと戦せん小こ伐は散さんと君きみのむすぶ敵てき賢けん小こ具ぐんと意い氣き揚あぐむすぶと出陣しゅつぜん一ひと城まこと小こ目め覚さくむすぶと宮みや中なかの王わう樓ろう小こ后きさき妃ひ十じゆ市し皇女みまのひめ皇子みまのひの脚背あしうら落おと見み送おくりむすぶも御み目め小こ溢あふるむすぶ紅こう淚なみだ泉いづみと彼あ漢かん楚そ終しゆうの戦せん小こ項羽かうやう最さい期きの出陣しゅつぜんと悲かなしむすぶ虞よ氏しがむすぶ數かず行ゆきのむすぶ淚なみだの雨あめも今いま日ひ御身みみ小こ降ふるむすぶとむすぶ紅こう曇曇るむすぶ御月みづきと拭ぬぐむすぶのむすぶ皇こう子しの脚姿あしづかたのむすぶ足あしをむすぶたりむすぶ行ゆきのむすぶ道みち

御足みあしを翹たかぐむすぶああめむすぶのむすぶ己おのれ小こ御姿みみづかた雲う霧きり露つゆ霽はらぬむすぶと一ひと声こゑ苦くると叫なぐむすぶ倒たふれむすぶ伏ふすむすぶとむすぶ兵へいのむすぶ命いのち婦ふもむすぶ死し急いそ扶た起たげむすぶと抱かかりむすぶとむすぶ皇こう女によ御み涙なみだと押お拭ぬぐむすぶのむすぶ命いのち婦ふのむすぶ子こもむすぶ貴たかもむすぶ賤せんもむすぶ女によのむすぶ身みをむすぶとむすぶ淺あくむすぶとむすぶ墓かぶをむすぶ者もののむすぶ中なかもむすぶ今いま吾われ儚はなむむすぶと世よ小こ幸さいああれむすぶ又また有あるむすぶ命いのち今いま般はんのむすぶ世よ乃なり強さかくむすぶハハ又また君きみ兄あに君きみ乃なりハハ良よ人ひとと在あるむすぶ何なんが勝かつむすぶ何なんが負まつむすぶのむすぶ罪つみハハ吾われ身み一ひとふふるむすぶとむすぶ是こゝもむすぶ宿しゆく世よと造つくるむすぶ罪つみの報ひらかむすぶるむすぶとむすぶ女によのむすぶ身み五いの障さや有ありむすぶ御佛みぶつのむすぶ國くに生なるむすぶ事こと難がたとむすぶやむすぶああれむすぶれむすぶ世よ存ぞん命いのちと猶なほ身み乃なり罪つみのむすぶ弥や増あふむすぶ愈い浮うむむすぶ期きたむすぶるむすぶ布ぬいむすぶと軍いくさのむすぶ肩かた勝かつむすぶと聞きかむすぶるむすぶ内うち小こ吾われ身み七しち人にんのむすぶ數かず小こ入いれむすぶ命いのち一ひと你おと吾われ身みのむすぶ足あし錯さくと亡なしむすぶ骸かれむすぶと収あめむすぶ跡あと吊たりむすぶてむすぶ仰あげむすぶと終しゆうをむすぶ隠かくしむすぶ持もつむすぶ一ひと守まもりむすぶと御喉みのどとむすぶ刺さ貫くわんたむすぶるむすぶ命いのち婦ふ大おほに警おしめむすぶたむすぶ田ためむすぶとむすぶ命いのち一ひと小疾こぢ息いきも絶たえむすぶとむすぶ命いのち一ひと其その身みもむすぶ七しち首くびと抜ぬきむすぶとむすぶ早はやく咽のど小突こつ立た死しと

よりなり。是を聞く皇女奉公せし官女二十余人我れもくと皆白く貴
くれて殉死せし志殊勝あり又哀れかりたり。将小是盛年ふ滋賀の
山櫻暴風の為小散れ色と競る。田の紅楓驟雨の為小落葉
さる小異なり。見る小月もこれ魂消。傳聞者袖を絞ぬ。なりたり

江州瀬田合戦 村國男依討智尊

去程小大友皇子の御勢都合八千余騎と三隊に分ち。田辺小隅巨勢の
比小四千騎を授け。瀬田の西岸小屯せし。大間知尊が加勢と力。の残
る千余騎は皇子自ら領し。赤兄金連入臣大人臣盤鋤塩平大
呂以下は左右に従へ。粟津の松原小錦の陣幕。赤せ日月の御旗。浦
風小吹衆。せく備。上却。親王方の先陣。村國男依和珥部君。手。陣の
推櫻五百瀬。大分。惠尺等。八所。合戦。小。勝。勢。小。竹。と。裂。衣。が。て。く。草

津より押上陣と張る。後の味方と相待。処小三陣の田中足上。呂。小。部。組
鈎。多。品。治。小。三。千。余。騎。も。著。到。大。山。越。小。上。ア。紀。阿。因。九。三。毛。連。女。斗。石
床等も。口。草。津。小。著。緒。将。會。議。先。敵。の。動。靜。を。規。へ。む。小。在。候
立。飯。り。敵。勢。劣。小。瀬。田。の。橋。の。西。乃。岸。小。屯。湖。田。小。船。一艘。も。又。さ。す。い。と
報。ら。ぬ。然。も。高。市。大。津。兩。皇。子。の。御。着。到。を。待。番。手。と。定。て。攻。進。む。を。
と。専。御。着。陣。と。待。多。小。其。羽。至。日。兩。皇。子。亦。部。の。勢。と。將。て。草。津。御。着
陣。あ。り。緒。将。御。陣。へ。赤。上。と。長。途。の。御。疲。勞。と。ね。ぎ。ひ。し。む。る。兩。皇。子
も。緒。将。の。軍。勢。と。謝。り。且。度。の。勳。功。と。御。賞。美。有。て。後。高。市。王。緒。将。小
向。ひ。維。を。先。陣。と。し。を。各。と。同。し。小。皆。村。國。男。依。が。數。度。の。高。名。を。主。と。す。
我。れ。も。先。陣。と。争。ひ。望。む。は。し。り。圍。と。以。て。定。む。を。と。二。將。と。一。隊。と。二。陣。小
分。て。圍。と。引。せ。り。小。先。陣。ハ。紀。阿。因。九。三。毛。連。女。斗。石。床。二。陣。ハ。推。櫻。五。百。瀬

村國男依和拜部君手三陣八分惠尺小部鉏鉤田中足六呂とを定り
是れ小依と隊毎小五千騎の勢と授られ残るハ西皇子於守道復ハ弱
方カと依部と己配當定り多々延藤原淡海公の使者參著ハ西
皇子の御着陣と祝ひまう淡海義ハ大伴吹負佐春衝及ハ撰河泉乃西
人等と俱小一万余騎おろ宇治より西近江出湖水の水下と渡一滋賀攻寄
山登ると言上り多々おと西皇子御依此斜なき御許容有て使者と飯ら
せの味方の緒將ハ右の首と告知めめひたり緒將是と聞て氣早れ上方
勢小先延せられんと先陣紀阿因丸三毛連安斗石床五千余騎小瀬
田の橋の東岸小到り鯨波と唾と奔るれ京軍も同く西と合し橋と渡
射と落さんと手葛根引と待ひけり速り切も寄人の兵とも我先わと
喚叫と橋と押渡り多々小乗て巧紋一仮橋をれも京方の者橋裏の綱

我切とやと叱り忽ち橋の中三間許板屋へ三百余人一日本水中へ落入
浮つ沈つ流と行幸じて助るも右溺り死するも多うなり後小續一軍勢大
小狭れ須驚敵方小謀計あると一旦引やと斬れ引返さんとも追て小
競ひと押合渡り猛勢後と声届るれ曳と声小と押る程小先小立者
又三三百人押落されも是れ小驚り声小橋と引ると引やと叫り惣軍
との東岸引返し如何せんとも猶豫多る然る処小紀阿因丸が旗下小大分
推臣といふ士武勇勝と胆捷男たれと言甲斐りた者もも小我小續と叫り
尺小不足橋折とまると走りまう只ハ入雲霞の如く群つる敵中面も振
かを斬て入是小励されも我れと橋折と傳ひ走り渡り馬上の去馬と湖水
乗入馬筏を組ど渡りくる京軍ハ敵の勇銳小恐怖と防矢射る変り無す
三町許隔り味方の陣逃込る東軍ハ勢小乗ど敵陣ハ依

全道直史記卷之六十一 東軍ハ勢小乗ど敵陣ハ依

てくる。京軍も是と迎合し追つ返ら逃れ戦ひ互不義と重んじ耻を
厭ひ一足も引ど戦ひ多。中も大分稚臣と衆小軸で勇戦。敵の馬
武者と引落し其馬小歩棄て返廻す。十三人討てり八九人小歩を負せ
るれ其饒富不辟易し敢て近寄者か。田辺小隅是をんぞ憎れ
敵の挙動もそ馬戎拍て強向ひ一言の言闘も及む太刀を揮て撃
てり。推臣主む所と曰く太刀閃りて斬結び二十余合。小隅は小
小隅カ裏て刀法稍乱れ推臣得たりと透回かく斬立難なく小隅
が左手の肩尖斬込症む処を置けり。二太刀三太刀斬付終小首を討取
り。京軍愈々逃散。大将大間知尊皇子方隨一
の強将なれ味方の兵が推臣追捲りて大り怒り我君御出陣
在り。敵見たり。小見苦れ逃るる。我眼と覚させると呼

り。稚臣小斬くる。推臣知尊ふり。合秘術と尽して三十分合戦ひ
り。知尊が太刀小兜の真向と割付れ敢あ首とくれ。京軍是
小機と撃。鋒と並ぶと斬進と喚叫んで戦ふ。元来京方七千
余騎の大軍。親王方足場と五六町捲り。まれば色々死きてる。
小隅。然る小東軍の二陣村。田男依。大分惠尺和珥部。君手の三將。二十
余騎。小湖と渡り。新歩の兵と與。鱗小陳。先陣の勢。又替り。大浪
の波。敵勢小伐くる。其鋒先小當り。京軍又支度路小成り。引
退れ。知尊怒り退り。味方と歩引。小と叫び。自馬戎棄。衆群り
来る。敵卒と斬り。草と薙り。瞬く間。小二十五人討て捨る。小と東軍
又其太刀。小斬り。左右。用。乱。時。小東軍の中より。惠見。集。名
告馬と躍り。知尊。強向ひ。太刀。振。斬。て。くる。と。知尊。物。と。呼

向合せ右清左拂小戦ひたり。然る小集知尊が太刀と受流さんとまゝ
小持る太刀鐔元より折飛るを驚かす早く身をくつて馬に寄知尊が
右手の腕組付多知尊ハ拔群の強力ハ猿臂と伸して集知尊の上帯
搔抓曳と言さる杖五六丈許投るをさる集知尊の骨や突折る
二言と言と死より。村國男依ハ眼前小腕股の郎黨と討せ憤然と怒
を發し敵將引かと呼きて馬を拍て鬼寄太刀と電光のてく閃くを
くろふと知尊もはく太刀と揚兩雄馬と交一往來と戦隻五十余合彼ハ
皇子方小雙ハ強將是ハ親王の御内小侍勇臣ハ俱小精神益加り又
二三十合太刀と合も雌雄更小決せされいさや組んたり互小太刀と投捨て
馬と並登て無手と組曳く声と採合遠小兩馬が回小嘩と落双方乃士卒
互小力と添んと強出互小隔て相合ぬ其間小兩將ハ力と尽と捨合取伏

とどめ刃返し。上よりれを押返一塊小成て争ひたり。知尊が運や尽る小男依
と取組りたる祭忽ち流箭飛來て眉間の正中小槍比深小立至所乃痛千
多れを吐と許小仰及々小男依下より刃及し遠小首と搔切て馬小飛乘大音
小京方小鬼神と呼し大間知尊と村國男依が討取ると呼りりれを京軍
大い小機と屈し親王方ハ勇立てまゝりやまゝりと興と發土煙と揚り代進む
小と京軍支兼て浮足小かりり。巨勢比味方を勵し君間近た粟津の御
陣より御覽と天恩と思ひ者ハ君の為小命と抛し泉下小歡感の倫言承
これと大音小呼りりれは是小聲と足並と互整し七千余騎の軍勢死族と
成り敵小當り曳く声と戦い々ハ何時果るとも見えざるなり
兩軍大擧戦粟津原并大友白王子自殺
人成血中々天小勝人定て天人小勝とや。され大友皇子一旦の虎威兼任して王

位を篡ひまがく方兼の位を以ていふれども不義の富貴浮る雲の如く諸所の
合戦一度も利かり兵極り勢ひ尽て今ハ漸く四千騎の微勢なり栗津原
氏より出ふ藤原淡海公吹負春衝以下の諸將と俱小万余騎なり宇治と
過り伏見と往て大津と進這り栗津の敵と伐んと押寄らる先陣は佐春衝
河内和泉の國人と俱小二千余騎なり具鉦を鳴り喊を發て殺到りこれ皇
子方よりも忍坂大内呂章那公盤鋤二千五百騎と率と押出敵と矢原小
引寄矢襖と造り散り射あらず。漂へ處を見をりて二千五百騎と田原
より鯨波を奔て伐てり藤原方も當の敵ハ大友皇子の御勢と人々
これハ勇氣と勵し迎合と挑戦ハ勇氣忍坂大内呂公今且最期の戦と
思ひ定射る心切れ厭をこと身自馬成真先躍せ當と幸寄と不運
と斬て落し井の字巴の字小並廻りて敵と射り數も中も河内國

住人久米稻主と名吉馬と並を大内呂公伐てり大内呂公得りて太刀と
合し十五合戦をこころ向もな忽ち稻主が太刀を落し疎く処と真向
兜の八幡座を斬割りる稻主眼眩り馬より逆落て大内呂公率小
首とられり大内呂猶も味方と勵し敵と追えこれを盤鋤も俱も勇氣
を逞ちて力戦し多くの敵と切て落し多し是れ依て春衝が勢強乱り
漂ひ多し二陣を和り大伴吹負二千五百騎を引り進出先陣ハ力を添て短
兵急小斬進む京軍新手の敵小並され又支度路成り引退く自玉子の
陣より谷塩手大養連二千余騎を殺出味方と扶り春山の崩り
勢ひをかりて攻戦中の中大養連ハ皇子の御内小く土師千島大回知尊
物部日向と俱小哭手と叫ど大剛の勇将なり二丈余の楯の棒と揮り
敵中割り入馬武者歩率の差別なく近付者と或は撃居又ハお作と

盤石を以て難印と碎がく皆時の内五十八人撃殺しつる。藤原方の
の緒率膽と消是は鬼神の人間業ふ有まると人なれを敗走と
京軍是成るを須波や敵の引色なるを騎も餘さを討れんと惣軍一
舟の大浪のちごと追まら。吹負春衝の采配歩揮引お者も隊を整
してキまよと声を洞と下知これも浮き下勢のあひ耳もかけと十町許
追まられり。淡海公味方の引色なるを見ゆひ金倭真足成生競る
勇臣も三十余騎と授けて味方の戦成扶しめり。金倭以下勢と卒と路
を横切疾風小村雲の走より早。京軍の横合へ押進と嘯と喚ちりも
是小狭盤鋤大呂兵と分て防んとれぬ火急の妻なれ下知届と軍隊
稍乱れ藤原勢得るかじと勢ひ猛く難立りつる。京軍是が為京
追捲られて弊走る。盤鋤大呂大呂怒り穢た者們的逃がらふ。威返して

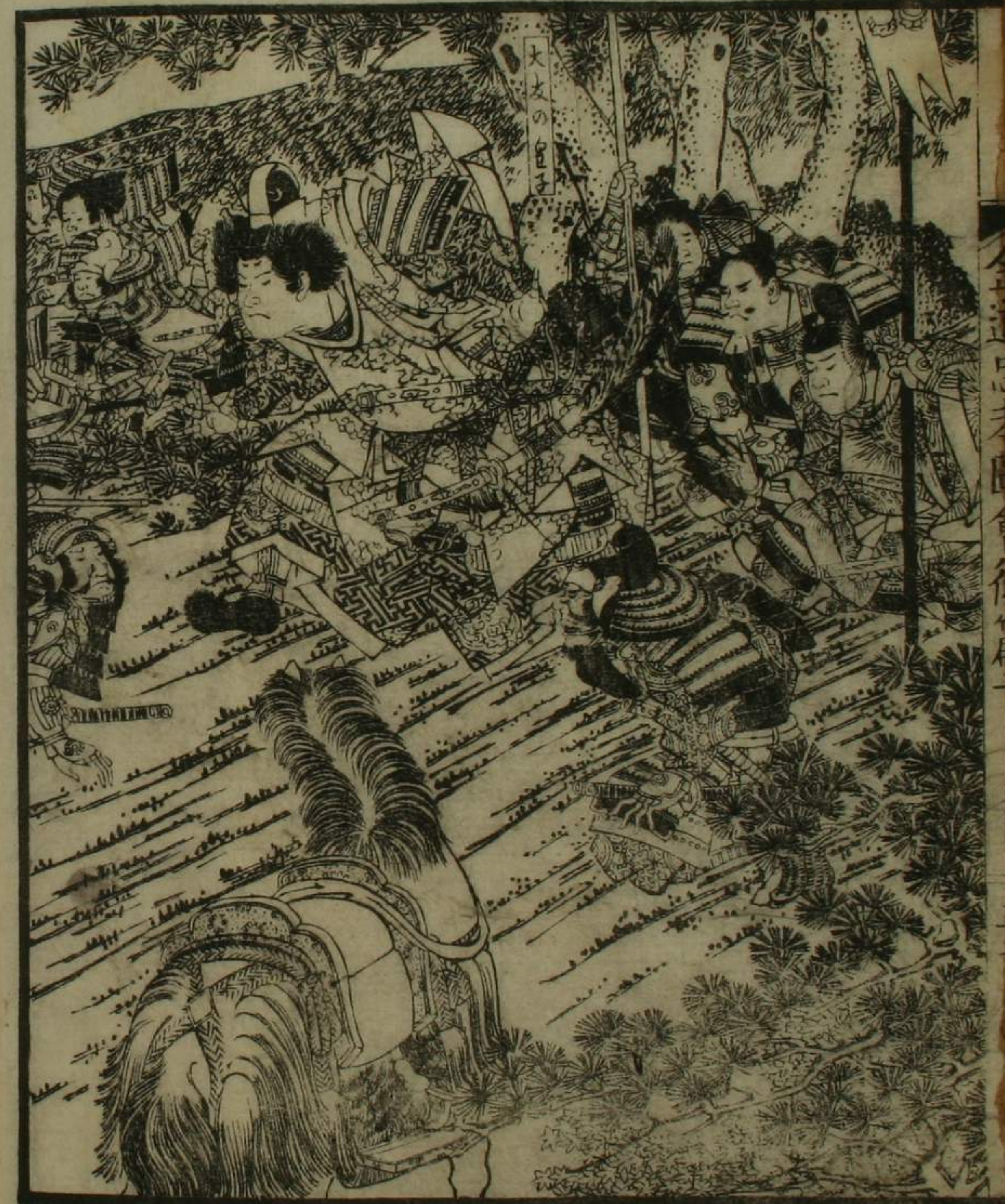
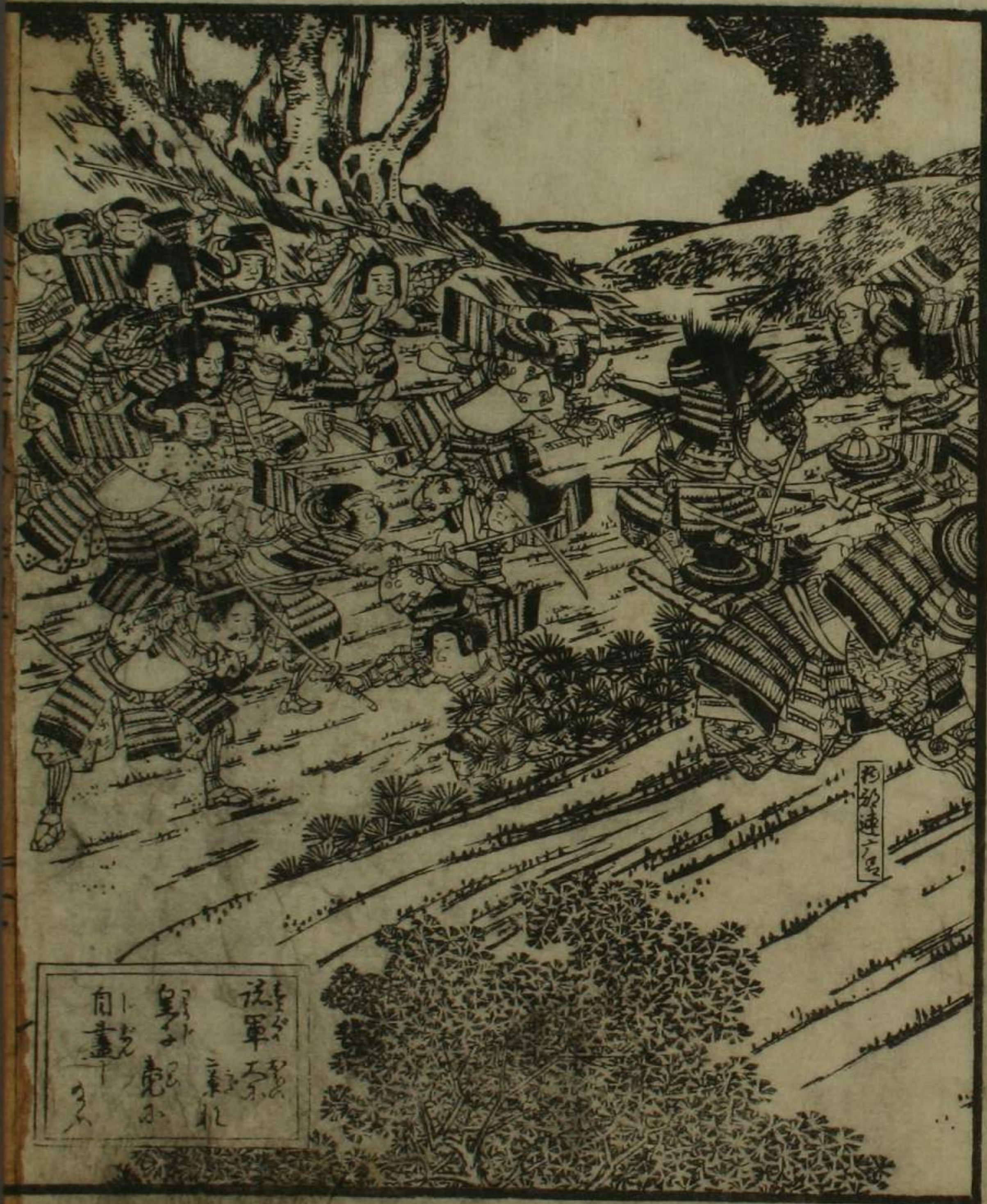
敵と追拂よ引者敵の手必待と斬と捨倉と叫り退く。士卒三入追
討れは是小師とつる。小踏留り隊と整と撃合つる。され敵味方二万
余騎入乱と戦ひつる。程小鯨波矢叫り音山河と震動せ。天維と
傾地地軸も碎るかと疑つる。許たり。され藤原方の京軍も一倍余の
大軍なれ。新玉々入替りて攻立皇子方へ入替る。兵おられ。漸く
小將疲率減りて。さも饒勇の大養連も吹負が笠前の下小余と後
盤鋤ハ乱軍の中戦死し。大呂も痛手笠前痕敷妻肩なれ。自身腹
掻切り矢谷の塩手も数ヶ所の疵と蒙り。今六戦も是までなり。君の脚詮
途を見届んとて本陣へ引返り。つる。京軍も惣敗軍となり。樟警手も
戦死し。どの余も敵と刺違又々自殺し。言甲受りた者も援け小落行或も
降参とも多り。つる。儲り大友皇子の御本陣へ。藤原我赤兄中臣の金連

巨勢人臣紀六人臣亦味方の戦ひ如何あらんと安ん心もたれ其進進と待
 所小瀬田の手敗率追々小逃飯り知尊八村岡男依小討と巨勢比田邊
 小隅も戦死し味方の兵士半八討ま半の落失頗る市國勢當所へ押来り
 い登と報むるふと白皇子とて赤見金連以下大小敬馬所ふ又く谷塩
 手朱小成て弘成と敗軍の由と言上りたれ君臣とも面を見合し惆果て左
 右の義といふ人かく緒率の西方の進進とて抜く小落行合まは五百余人
 有つる勢もろろ二百五十騎不足たり往々赤見金連人臣大臣亦密
 耳結令皇子小向ひく此上臣等敵の寄る道小強向ひ防箭仕りいり向小
 君八當所と脚動座有て何方なりとも落さむい再び脚勢を集めて天
 下と争ひもふ登りと奏し落残る勢と率し脚陣とて敵小向ふと見せ却
 て半途より已が心く小落失多ると卑怯なる軍勢とも八是を以て四人が

不義不忠と悪し排り脚陣へ引返り斯と言上りたれ皇子も脚憤り深く入
 心の頼むと脚敷息あり内早貝鉦の音凄く中々驚声漸く小迫付多
 小と物部連六名存候と出と見せむる小其者ももきり飯り瀬田の手乃
 東國勢雲霞の如く押来り上藤原方も向近く攻寄りと報ずり間事と
 小兩方の敵軍脚陣と十重二十重小取囲喊と發て攻結多り谷塩手八等の
 太刀疵矢疵を肩ながら今と命と抱く君息小剛ひ奉ると呼り馬小亦垂
 二百騎の勢と將と村雲多る寄人の中へ面も振とて喚て割り入
 縦横小強廻り敵多し斬り落し其身も乱軍の中小討と多る小二百騎
 乃勢も悉く敵中へ斬死せり白皇子も小高丸岡小脚馬と多りい五
 人張の強弓小征前も番て指取響結矢継早小射多程小脚矢恭向
 者一人も命と全うする者なく脚矢の下小射伏らる者五十余人及たれ寄人

兵大少恐怖し。敢て咫尺まである者もたゞる。皇子即矢種尽るも猶
 も敵不當んと。脚太刀拔とも馬を進んたり。皇と物部連上宮喜比小
 さかり。十善万舞の脚身を攻め。匹夫下郎小脚手と下し。身も返り勿体たれ脚
 更ふゆ唯脚心静小脚自殺たれ。皇と恐るる。臣脚介錯たれ。脚首
 と深く隠し。身も隠し。練奏申され。皇子練小頭ひ。後の山へ上り。脚
 馬上か。敵軍の衆を見渡し。身も付て。脚心中。返り金鳥が契約小階
 を深く恨憤らせ。西の天と白眼の脚眼。脚鬢逆立。脚冠を
 貫く。許ふ見え。折り日輪。西傾。敵陣小峰。多陣太鼓の音。湖水小
 響音。ゆえ。脚馬より下。全人小虎の敷皮布せ。座。脚科紙。召
 脚筆。執り。脚辞世の詩。賦。脚其脚詩。小曰
 金鳥臨西舎 鼓聲催短命 泉路無賓客 此夕離家向

と賦。脚の脚鎧脱捨。脚肌。サ。ろ。ろ。短劍と拔持。脚腹。一。支
 字小搔切。ひ。ひ。連。名。注。脚背。小。廻。り。終。小。脚。首。と。去。る。洛。し。も。り
 錦の脚直垂の袖。小。押。包。樹。間。の。土。で。深。く。堀。埋。進。せ。其。身。も。腹。十
 文字小搔切。死。る。皇。子。脚。近。臣。の。面。三。十。余。人。互。小。刺。達。盡。く。殉。死
 一。も。り。皇。子。脚。歳。二。十。五。歳。と。聞。え。脚。身。と。亡。一。の。更。惜。も。猶。惜。も。皇。子。脚。更。か。り。ろ。り
 脚若年と申。希世の俊才と懐。脚富貴。双。た。れ。脚身。か。る。小。天。小。逆。ひ。王
 位。を。犯。し。ひ。故。八。百。萬。神。守。護。し。ひ。と。天神。地。神。の。奴。才。觸。あ。ろ。ろ
 脚身。と。亡。一。の。更。惜。も。猶。惜。も。皇。子。脚。更。か。り。ろ。り
 按。小。書。紀。の。集。注。小。大。友。皇。子。の。塚。八。河。内。國。茨。田。郡。三。矢。村。の。山。崎。小
 有。と。紀。せ。り。松。苗。が。國。史。略。小。江。州。膳。所。の。西。小。茶。磨。山。と。山
 あ。り。山。上。小。古。松。あ。ろ。り。儀。殿。と。山。陵。か。り。是。恐。く。大。友。皇。子。と



葬并る所にて河内の山崎小右と云ふ非也此統據ありと細筆

天武天皇御即位 飛鳥宮造宮

斯て官軍十分小伐勝今拒敵者一人もたかりしを大不凱歌と奏り士
率を分る大友皇子の御首と尋搜さむる山丘の樹間小埋有りと求
出さるる小右將大不喜ひ草津の御本陣其首注進しつれ高市
大津兩皇子も御欣悦ましく諸軍を率て粟津へ御陣を移され諸將の
勲功を御賞美ありて後大友皇子の御首と実檢かりし小右皇子も
御落涙あり夫より滋賀の都へ赴たぬ万事を執治めぬし市皇女乃御
死骸と皇子の御首と棺小収め彼御最期の地小守り葬らせぬなり
備其後逆意小右將 蘇我赤兄以下の踪跡を半配して尋搜させし
小此所の村落彼所の山里より搦捕て滋賀の都へ曳来る其族小右大

臣中臣金連左大臣蘇我赤兄其金屋人臣紀大人臣以下皇子の御謀殺

小荷擔せり者々名録と云ふ違あり昨日まで三三公の威小憐り殿上

小肩と從算し臂を張りも積悪の天野忍ち小廻来と縲紲の耻と云ふり

今日二箇の罪囚とかる吏と緒人指さるる緒笑たり斯く高市手り

野上の御陣へ兵乱治りし首と奏達し小緒軍將小且御暇と下され

く自國へ飮らぬれ兩皇子大和國嶋の都へ移り野上の御陣小親王

高市王の注進と聞食て御悦び斜めを野上と御動座あり美濃路

我脚登駕たりゆひ大和ある嶋の都小著御あり兩皇子小御對面の上

今度の成功と御賞美在り緒將と召して皆それ小爵位を加御如増

と賜りし中も村田男依と勲功の弟として近江半國を与行れ藤原淡海

小棋津半國を賜ひ大伴吹負和列の内小三郡佐春衛ハ前地の上小河内

小く三郡と脚加増有る。諸囚人の罪と脚抄決ありて。猶我亦凡八殊更小
皇子小悪事と勸し長本かれを断罪小行り中臣金連を土佐國配流
巨勢人臣陸奥國紀大入兵佐渡國遠流せし其餘の輩も罪の重
小依てそれ小刑し其後親王八岡本の旧都移り玉ひ岡本の南小新
内裡を築り其結構四万小十門を建陣の御座軒廊左右の掖其餘乃
緒司八省緒の館舎小ゆる追魏と造營せりあり小羽三年癸巳年九
月小修造全成就し十月小吉辰を擇り新内裏へ脚遷都あり是を
飛鳥の宮とも又清見原の宮とも申す。又其翌年甲午年正月脚即位乃
大禮と執行せり先南殿小壇と儲陛下の中央八鳳の旗を置り左小
日の脚旗青龍白虎の幡右八月の脚旗玄武朱雀の幡其餘旧例小依
種々の飾物遺る所なく綱させり万乘の寶位小即せりはれ百官百

司万歳を唱く慶賀し奉り始り白鳳元年と年号と置り此帝と
天武天皇と申す。又清見原天皇とも稱し奉り多斯て天皇新小脚即
位なり。天下泰平小依り脚歡小非常の大赦と行ひる。天皇脚即位
乃義緒國觸渡され多小依て東國北國西海南海の國司守護の面禮
物と綱り新都へ奉り脚即位の脚賀と祝し多り。是小依て新都の懸
昌大方なり。昨日すて兵乱小恐惑ひ山林小逃隱と或遠國移り人
民皆新都へ集り住業と樂む。報腹して皆泰平と綱ひ多。茲小九列乃探
題大友金鳥八友皇子合戦小小負ひ亡び玉ひと安く大小悦び多。年
乃大望成就と命り時節近付ると暗小舌と吐て狂笑し其色と顯
む。金銀絹帛の聘物と齎し都上洛し内裡へ参候と脚慶賀と申し其
序小新内裡の内外と拜見し垣の雅明小命と内裡の圖と微細小写り是

を懐中して朝廷へ参り、飯國の御殿を願ひ、還る都を去り、自國へ飯りたるが是より九列の緒士、小對面とする。母小其心腹と探弑し、大友皇子の帛軍と名として時、己が隠謀、小味とせん、巧と々々、不敵なりたる。

橘白虫養育幼主 金道九幼稚奇行

却説大伴家強、幼主を懐く。豊後國臼杵と立退し、橘白虫、忠義乃心金鉄の如く、何率幼主と守之。主君の仇を復し、大伴家と再與せん。緒列を漂浪し、筑前國早良郡生の松原近た所、小妻の所縁有々、其所、小脚と留め、軒の家と求り、住居し。飯小名と早良等と名告、金道九を我子たりと言觸し、名と満石と呼妻女、小育り、其身ハ手跡と幼童小指南し。或ハ若者、小弓馬、鼓手、劍の技を教導して、其日の煙と立たる。小追く、小門弟の數を増物足と、小あ、其日と安を、送り、小抱小

等、白ふと瘡疾を病出、醫師を迎、治療を乞、ども、左右治し、兼て日久く病卧、夕一日、門外より一人の老翁、入来り、早良が妻、小向、我此屋の内を、々々、邪妖の氣満り、必む病者有、めん、我醫療の奇術あり、其病者と療、得、さ、を、と、い、ふ、と、妻、女、訝、を、お、か、る、其、人、品、凡、人、な、ら、む、と、ん、え、くれ、を、皆、く、待、せ、夫、小、斯、と、告、ぐ、れ、を、等、も、怪、し、と、思、ひ、も、病、小、倦、景、折、柄、かね、を、先、對、面、を、登、り、と、妻、小、命、と、病、床、へ、緒、入、起、あ、り、て、礼、と、な、り、貴、老、某、が、病、を、療、賜、ん、と、や、も、如何、なる、良、方、の、ゆ、や、と、問、ふ、公、物、が、曰、別、小、良、方、有、お、も、あ、を、も、足、下、の、顔、色、黄、色、と、帶、さ、る、ハ、心、を、瘡、疾、ち、る、を、瘡、疾、ハ、多、く、惡、土、の、氣、小、能、く、生、じ、る、物、ナ、リ、土、の、色、ハ、黄、ナ、リ、故、小、血、色、黄、色、と、顯、す、我、一、箇、の、秘、咒、を、以、て、一、七、日、の、間、小、治、し、進、を、登、り、と、袖、中、より、一、葉、の、梨、子、取、出、刃、物、を、乞、く、七、枚、小、切、何、ダ、日、内、小、咒、語、を、唱、て、梨、子、の、切、小、息、と、吹、く、け、等、小

とて曰此梨子と明朝より一枚の稻荷の神と心祈念して食し七日間忌
更勿必も験有る。病治ふを庭の祠を造り寛平白狐と書
是を鎮祭る。後禍を免る。更あんと言教へ瓢箪とて去け
る。小等未だ半信半疑。其翌朝翁の教の如く稻荷の神祈念
し件の梨子と一枚食し。其日より快く覺る。毎朝如是。其日
疾追く瘡熱さち七日の病全く治り。平日の復々も小等も妻女も
大の悦び彼翁と尊信し教の如く庭小祠を立寛平白狐神と札小書
して是を神躰と崇り種々の供物と具り祭つたり。其夜二更の頃庭の
方小數百の野干の声足音なんとぞえられ。等心中小是ハ緒方の野干祠の
勸請と祝賀の爲小集る。庵と思ひ是より朝夕供物と供へ信仰し
たり。其先且其れ幼童満る。金道丸 健小生立己小五才たり。天

性智力を備へ等が幼童小手跡と指南とを傍よりかみ居て教ふる小
筆と執り書とかく更手習ふ童子より杏勝り筆法点畫則小合れ
む等大小奇なり。且喜び想道緘小丹檀二葉より芳く。頻迦鳥ハ印
の内より其音緒鳥小勝と云此稚君凡人小在。其より手跡と教へ
益心と云々。養育六才の年より四書五經亦と讀學志むる。一度はてハ
再び忘失となく。はくと書と誦の水の流るが如く。或日等が友より
終結の序小等小向ひ剛毅木訥近仁と云る。語ハ論語の何の篇小ハと問
る。小等も暗記せられ。差結り某も何の篇小有。人聡と覺むと書と取
りて進せんと起んとせ。小六才の満石側小手習と居るが是とて其結
を子路十三の篇の末小ハと云。等大小耻實然なり。莫也。一
篇の違やせん。と論語の書と取。子路の篇と繰出。果と満

石の言のどくわり多し。等も友人も深く其剛紀を感下り。借友人飯りて
後等満石亦向ひ你ハ知少あかき。記憶よれ。更長者も及ぶ。然るも更のこ
てハ證とさる。小不足。試小同。有。不虞之譽。有。求全之毀。との語ハ。聖書
の中何の書亦。有。や。同。満石。聊も。沈思。さる。体も。な。其。こ。と。子。子。離。婁。章
句の上の。半。ゆ。と。答。等。驚。お。か。ら。茲。む。又。好。学。近。年。知。力。行。近。年。仁。知。恥。近
年。勇。の。語。ハ。何。亦。有。や。と。同。満石。答。中。庸。の。中。哀。公。問。政。の。章。の。次。ゆ。と。答
是。亦。依。こ。等。益。奇。なり。猶。唐。詩。選。古。文。を。ん。満石。が。学。子。書。物。の。句。と
同。小。盡。く。これ。く。小。答。る。吏。卿。書。の。物。小。應。む。如。か。れ。む。さ。さ。の。等。も。舌。と。慄。と
其。俊。才。と。恐。ま。さ。り。斯。く。満石。七。才。小。なり。正月。武。藝。の。松。昔。古。始。と。等。が。門
弟。大。勢。寄。ま。り。教。導。場。小。く。叙。法。柔。術。と。競。る。或。満石。見。物。と。羨。し。や
思。ひ。ん。是。下。り。日。毎。小。教。導。場。へ。往。く。緒。門。人。が。木。六。分。竹。刀。と。弄。弓。の。松。昔。古。さ。る

を。眼。目。も。や。む。と。見。入。後。火。半。づ。う。竹。木。と。切。く。木。刀。竹。刀。の。形。と。造。り。近。隣。の。小
兒。と。集。り。遊。戯。小。劍。術。杖。首。の。真。似。を。な。す。或。竹。と。撓。て。弓。を。紙。羽。の。矢。と。造。り
雀。小。鳥。と。射。る。小。最。初。中。む。と。魚。後。中。む。と。雀。鳩。の。類。と。射。取。り。携。り
飯。り。さ。る。お。と。等。驚。嘆。し。今。武。藝。と。教。め。ら。る。と。七。才。の。秋。下。り。手。物。弓。矢。馬
術。亦。と。教。導。す。小。満石。好。む。処。な。れ。悦。び。進。む。寢。食。を。忘。る。癡。学。や。小。目。小。熟
煉。と。歴。の。若。者。も。手。小。金。や。小。成。さ。る。小。と。皆。後。世。恐。る。小。兒。の。か。と。感
じ。さ。る。或。時。満石。庭。前。の。草。花。小。胡。蝶。の。翻。と。飛。戯。る。或。余。念。か。く。敗。居。る。れ。ば
等。突。亦。木。刀。と。背。小。隠。し。持。潜。足。と。満石。背。窺。寄。曳。と。一。声。け。て。木。刀。と。両
手。小。揮。梳。さ。る。小。満石。自。着。く。と。一。点。も。愕。く。体。か。徐。小。後。と。顧。し。父。親。ハ。何。更。を
か。り。な。さ。と。言。お。と。等。心。中。感。下。る。虚。咲。し。你。小。武。技。を。久。く。教。つ。と。不。意
を。赤。て。絨。ハ。ん。ん。も。戲。小。斯。か。せ。の。と。お。笑。て。止。ま。る。満石。が。物。小。動。せ。ん。度。量



と深く奇く。此稚君ハ実ハ神童也て在せり。きりきり金の鳥も亡し兼も
あれ疾く脚成長かゝり引伸とて。年月のまて待ふ。又或時ハ満石
見其堂小向ハ書見して居る。小手飼の猫軒端より閃とて庭へ飛下。草葉小
棄て有。蛙と飛付る。喰々と満石馳とて居る。何思ひんはと
座とまきり行く。件ハ猫と撞。四五回向投。小猫ハ投られ。四足を
てひらきとて後とて逃去。満石猫の身置を見て心ハ感むる所ある
也。是より物の上を飛越。又と溝ハ飛越。かど遊捷の業と自得とる
也。心掛る。或日野外ハ農人の小兒も。寄三尺半の稻胡ナの有
也。我もくと越人ハ飛でん。能飛越る者ハ。満石も是を飛越ん。能
も我身さ三尺小足。左右とも飛越る。能也。然ハ小兒の中小十三才
許。角彼稻胡ナを三度飛越。大小自慢。人も無氣。言辨を

満石稚心ハ巧惜也。自身飛越。能也。息と吞て無念と心ハ其日
と家小飯。翌日より只一人。彼稻胡ナを生。野辺ハ往敷度飛越。とれ
猶飛越得。然も少も屈也。連日通ひ。飛越。多ふ五七日過。よりハ
終ハ能飛越。然得。其より暇有。毎ハ稻胡ナの辺ハ到。飛越。多ハ稻
ハ漸く延。六尺許。亦たり。満石煉磨の功積り。是を飛越。り飛鳥
の。今七尺の展風。飛越。兼。成。彼大童と。誘ひ。野外ハ稻
胡の辺ハ到。你前日此稻胡ナを飛越。て大ハ自慢。今も能飛越。る
やと言。大童大。先ハ此稻胡ナ。是程ハ長。依て百度。も
飛越。今ハ拔群。延。大ハ背。高。争。飛越。ら。言。猶
石。曰。你飛。能。我飛。足。や。向。大童。腹。抱。絶
倒。你。低。時。飛。今。斯。丈。高。何。飛。得。ん。

